

第5回とやま未来創生産学官連携推進 会議における主な意見
(令和3年 3月 26日 開催)

- ・他地域と差別化した特色あるジェネリック医薬品作りに力を入れていく必要がある。
- ・あと2年でくすりコンソーシアムの取組みへの国の交付金が終了するが、その後も継続する強い意志をもってほしい。
- ・富山のブランド力を高め、安心安全な薬を全国に届けるため、薬業連合会の支援をしていきたい
- ・県外学生のくすりのサマースクールの実施など、人材育成にも取り組んでおり、今後も可能な限りの尽力をしていきたい。
- ・くすりのコンソーシアムの取組みを自走化させ、システムを作り、他県でもそれを使ってイノベーションが生まれるようなものにしていきたい。
- ・カーボンニュートラル、電気自動車普及に向けた時代の流れはアルミを活用した取組みにとってチャンスである。Co2の削減量も明確に示しつつ、アルミのリサイクルに向けた取組みを富山県で進めていく必要がある。
- ・今後とも、企業間のオープンイノベーションのハブになるため、様々な施設整備等を通じて支援をしていく。
- ・マーケットが何を要求しているのか、徹底的にマーケティングし、シーズ思考でなくニーズ思考で実用化を検討していくべき。また役割分担のうえ、北陸3県の力をあわせて取り組むとよい。
- ・産業集積は一朝一夕に生まれない。富山にはくすりやアルミのクラスターが形成されており、これらをしっかり活かすのは大切な視点。
- ・富山は「住みやすい県」だが「住みたい県」にはなっていない。若い人が魅力を感じていないのではないか。ナンバーワンになり、それを情報発信することで人材確保につながっていく。各コンソーシアムにおいて、そういったものを目指して欲しい。
- ・設定した課題に対し横串をさし、セクションの枠を超えて解決に取り組むプロジェクトベースの取組みにより、例えば高速通信、データ利活用などを通じた課題解決など、産学官連携の成功事例を出していきたい。
- ・大規模な企業向けの制度だけでなく、リモートで仕事をする人や個人事業主等も、富山にきて本店を構えるような仕組みづくりをお願いしたい。
- ・富山県外で転職する方も多く、その要因としてコンペティティブ（競争的）な給料を払えているかどうか大きい。産業界にはその点の努力もお願いしたい。